



憎悪犯罪の脅威案内

アメリカ合衆国司法省
連邦捜査局
公民権係



憎悪犯罪には様々な形式があります。従って、その対応も事件ごとに変わります。どんな場合にも警察に通報する必要があり、証拠を保全するために全力を尽くす必要があります。憎悪犯罪の脅威に直面した場合、下記の有用なヒントに従ってください。

真の脅威とは、特定個人又はグループに対して不法な暴力行為を取行する意思を真剣に伝達することです。

真の脅威は修正第1条に保護されておらず、憎悪犯罪として起訴可能な場合があります。

身体的脅威

身体的脅威は、受け手又は他の人を差し迫った危険にさらすとみなされる、対面での真の脅威です。事態の総合性の基準によると身体的脅威と判断するために一つの決め手がない。事実と状況を考慮した上で差し迫った危険性の有無を判断しなければならない。身体的危害の差し迫った危険に直面した場合、三つの選択肢があります。

- ⇒ 逃げる
 - 逃げ道と脱出計画を念頭に置く
 - 私物を残す
 - 可能であれば、他の人の脱出を手伝う
 - 負傷者を動かさない
- ⇒ 隠れる
 - 脅威の見られないところに隠れる
 - 隠れている場所のドアに鍵をかける、若しくは入りにくように塞ぐ
 - 携帯電話をマナーモードに設定して（バイブ機能も消して）音を立えない
- ⇒ 戦う
 - 身の危険が差し迫った時にのみ最後の手段として戦う
 - 脅威の無力化を試みる
 - 可能な限り身体的に攻撃する
 - 武器を即座に作る、又は物を脅威に投げつける
 - 命がかかっているので、ためらわずに行動する
- ⇒ 差し迫った脅威が収まったら9 1 1に電話する

言語的脅威

言語的脅威は、受け手を差し迫った危険にさらさないと思なされる、対面での真の脅威です。

- ⇒ 加害者が去った場合、行った方向に注意する
- ⇒ 即時に9 1 1に電話して警察に通報する
- ⇒ 表現された通りに脅威の文言を書き留める
- ⇒ 脅威の言葉を言った人物の身体的特徴に注意する
 - ⇒ 名前（もし分かれば）
 - 人種
 - 性別
 - 服装の種類、色など
 - 体形（身長・体重）
 - 髪と目の色
 - 声（大きさ、深さ、なまりの有無など）
 - ⇒ その他の特徴

電話による脅威

電話による脅威は、電話で受ける真の脅威です。脅威が受け手又はほかの人を危険にさらさない限り、受け手は発信者及び脅威についてできるだけ情報を収集すべきです。

- ⇒ 落ち着いたままで、電話を切らない。脅威は具体的なのか、現実的なのか、また他の人に差し迫った危険があるのかを把握するために情報を求めてみる
- ⇒ 可能であれば他のスタッフに合図して、当該電話の話を聞き、即時に9 1 1で電話して警察を呼んでもらう
- ⇒ 電話に画面があれば、表示されている発信者の電話番号の数字や文字をコピーする
- ⇒ 脅威の文言を正確に書き留める
- ⇒ できるだけ電話を長引かせて、できるだけ情報を収集するように試みる
- ⇒ 可能であれば録音する
- ⇒ 警察が対応した際にインタビューに応じる

電子的脅威

電子的脅威は、電子メールやソーシャルメディアなどを通してインターネットで受ける真の脅威です。当初は目に見えない大切な情報が、科学捜査により判明が可能だということを知ることが重要です。当該通信を証拠物として扱うことが大事です。

- ⇒ 電子的脅威を絶対に削除しない。科学捜査で追加の情報が判明する可能性がある
- ⇒ コンピュータでメッセージを開いたままにする
- ⇒ 即時に9 1 1に電話して警察に通報する
- ⇒ メッセージの件名と内容をプリンター、写真、又は手書きでコピーを取って日時を記録する
- ⇒ コンピュータに詳しいなら、電子的証拠を保全するための手段を取る

書面若しくは視覚的な脅威

書面若しくは視覚的な真の脅威は、手書きのメモや落書きのような書面又は視覚的な形式で受ける真の脅威です。

- ⇒ 書面などをできるだけ触らない。内容がいくら侮辱的でも絶対に捨てない。これは証拠であり、警察に手がかりとなる特徴があるかもしれない
- ⇒ 即時に9 1 1に電話して警察に通報する
- ⇒ 別の紙に脅威の文言を正確に書き留めて以下のことを記載する
 - 書面が見つかった日時及び場所
 - 書面の発見若しくは配達における状況や状態
 - 脅威を目撃した人の氏名
- ⇒ 脅威の原本を確保する。如何なる変更を絶対にしない。
- ⇒ 小さくて取れるようなものであれば、袋や封筒に入れる。手で触らないように気を付ける。
- ⇒ 大きいもの又は動かせないものであれば、場所を確保して脅威に損害・改ざんが起らないようにする

安全なところで、脅威の受け手は現地のFBI支局に連絡して、公民権担当の班に憎悪犯罪苦情書の提出を要請するべきです。地方警察に通報される苦情は必ずしもFBIに伝わりません。



憎悪犯罪の脅威案内

アメリカ合衆国司法省
連邦捜査局
公民権係



憎悪犯罪の被害者として予想すべきこと

- ⇒ 連邦憎悪犯罪が行われた疑いがあると判断した場合、一名以上の特別捜査官が捜査を開始します。捜査の一部として特別捜査官は証拠を収集します。この段階で貴方や他の被害者がインタビューされるかもしれません。
- ⇒ 大陪審で貴方の経験について話していただくように求められるかもしれません。
- ⇒ 徹底した捜査が行われます。捜査が終了するまで長い時間が掛かる可能性があるため、日々の進展について最新情報やブリーフィングを受けません。逮捕や起訴などのような大きな進展についてはできるだけ知らせます。FBIはこのような情報を公開する前に貴方に伝えることにしますが、捜査を危うくする若しくは警察を危険にさらす機密情報を開示しないように気を付けなければなりません。
- ⇒ 特別捜査官のほかに、被害者が特定されている事件がFBIの被害者専門家に割り当てられます。被害者専門家は被害者へのサポート、情報、及びリソースの提供に熟練した専門職員です。被害者専門家は貴方に連絡して貴方の権利や利用可能なサービスについて説明して、FBIでの連絡先になります。

FBI支局の代表番号

オールバニ	(518) 465-7551	インディアナポリス	(317) 595-4000	オクラホマシティ	(405) 290-7770
アルバカーキ	(505) 889-1300	ジャクソン	(601) 948-5000	オマハ	(402) 493-8688
アンカレッジ	(907) 276-4441	ジャクソンビル	(904) 248-7000	フィラデルフィア	(215) 418-4000
アトランタ	(770) 216-3000	カンザスシティ	(816) 512-8200	フェニックス	(623) 466-1999
ボルチモア	(410) 265-8080	ノックスビル	(865) 544-0751	ピッツバーグ	(412) 432-4000
バーミンガム	(205) 326-6166	ラスベガス	(702) 385-1281	ポートランド	(503) 224-4181
ボストン	(857) 386-2000	リトルロック	(501) 221-9100	リッチモンド	(804) 261-1044
バッファロー	(716) 856-7800	ロスアンゼルス	(310) 477-6565	サクラメント	(916) 746-7000
シャーロット	(704) 672-6100	ルイビル	(502) 263-6000	ソルトレイクシティ	(801) 579-1400
シカゴ	(312) 421-6700	メンフィス	(901) 747-4300	サンアントニオ	(210) 225-6741
シンシナティ	(513) 421-4310	マイアミ	(754) 703-2000	サンディエゴ	(858) 320-1800
クリーブランド	(216) 522-1400	ミルウォーキー	(414) 276-4684	サンフランシスコ	(415) 553-7400
コロンビア	(803) 551-4200	ミネアポリス	(763) 569-8000	サンファン	(787) 754-6000
ダラス	(972) 559-5000	モービル	(251) 438-3674	シアトル	(206) 622-0460
デンバー	(303) 629-7171	ニューヘイブン	(203) 777-6311	スプリングフィールド	(217) 522-9675
デトロイト	(313) 965-2323	ニューオーリンズ	(504) 816-3000	セントルイス	(314) 589-2500
エルパソ	(915) 832-5000	ニューヨークシティ	(212) 384-1000	タンパ	(813) 253-1000
ホノルル	(808) 566-4300	ニューアーク	(973) 792-3000	ワシントンDC	(202) 278-2000
ヒューストン	(713) 693-5000	ノーフォーク	(757) 455-0100		

2018年2月現在の支局代表番号です。最新の支局代表番号は<https://www.fbi.gov>に掲載されています。